

仲⑫

戰史資料

步兵第三聯隊第一大隊長陸軍大尉 山上誠之

一 編成裝備關係

1. 本部(一)銃(小銃中隊四)砲(中一)砲・BA(二)砲(擲彈)二砲(正砲)二砲(RIA)二砲(30)

2. 職員表別紙通シ

3. 官石上陸後二回(廿月)前(二)且、現地入隊兵八〇名入隊ス

4. 現地住民一五〇名戰車壕並水際障害物構築ノ爲使用。

其他女子青年團員約五〇名各隊ノ炊事ニ協力セシム。

二 部隊履歴概要

明治三十九年十一月十二日 新潟縣村松町ニ創立

明治三十七八年 日露戰爭ニ出動

大正七年 六ノヤ出兵

昭和六年七月 滿洲事變ニ出動

昭和十七年七月 支那事變ニ出動



陸軍

宮石島北地區。位置シ聯隊第一線ナリ復部陣地ヲ構築ス

戰車壕並掩蔽壕ヲ以テ構成 海岸水際障害物ヲ構築(松材トシテ)

2. 陣地ノ狀況

1. 起上時期 昭和十九年七月十八日

所要人員 兵カ外防衛隊一五〇名(現地住民)協力カス。

使用資材 現地松材並トロンコロール

3. 完成時期及強度 昭和二十年

4. 敵撃依蔽壕補修狀況 攻撃ヲ受ケタルト無キ爲ニ補修ナシ。

5. 港灣施設 敵上陸豫想地點ニ水際障害物構成(佐賀根梅崎灣)

4. 軍需品集積狀況

軍需品 内地ヨリ運入セル若干品ト貨物廠保管品トス 臺灣ヨリ輸入セル

7. 野菜類ノ現地ニ於テ供出セルモノモ微クセルモノニテ野菜等ヲ使

セ使用シ自治生産ニ精勵ス

糧秣 其都度受領シ常ニ十分保有ス

六給養衛生

上陸當初ハ主食600瓦ヲリシモ輸送困難ニ伴ヒ400-350瓦トナリ、榮

養上作業困難トナル 終戦以後糧秣ノ見込モソク標準ニ近

キ給養トナリ一般ニ體力カ回復ス

マリア患者逐次發生シ十月十一月ハ最高調トナリ兵員半数ハ

就寝ノ差入院ノ状態ニ至ル 死セ者も續出シ終戦迄ニ九五名ヲ

失フ 終戦以降作業ノ軽減ト給養ノ向上ニ依リ體力モ逐次快

復ス

七終戦ヨリ歸還迄ノ行動概要

終戦ニ伴ヒ陣地ヲ撤收シ專ラ自治並ニ體力カノ回復、患者ノ撲滅

ニ重點ヲ指向シ復員準備ヲナス

右外將校以下職業補導教育ヲ并テ並ニ精神教育ヲ實施

シ新日本建設ノ指針ヲ與フ

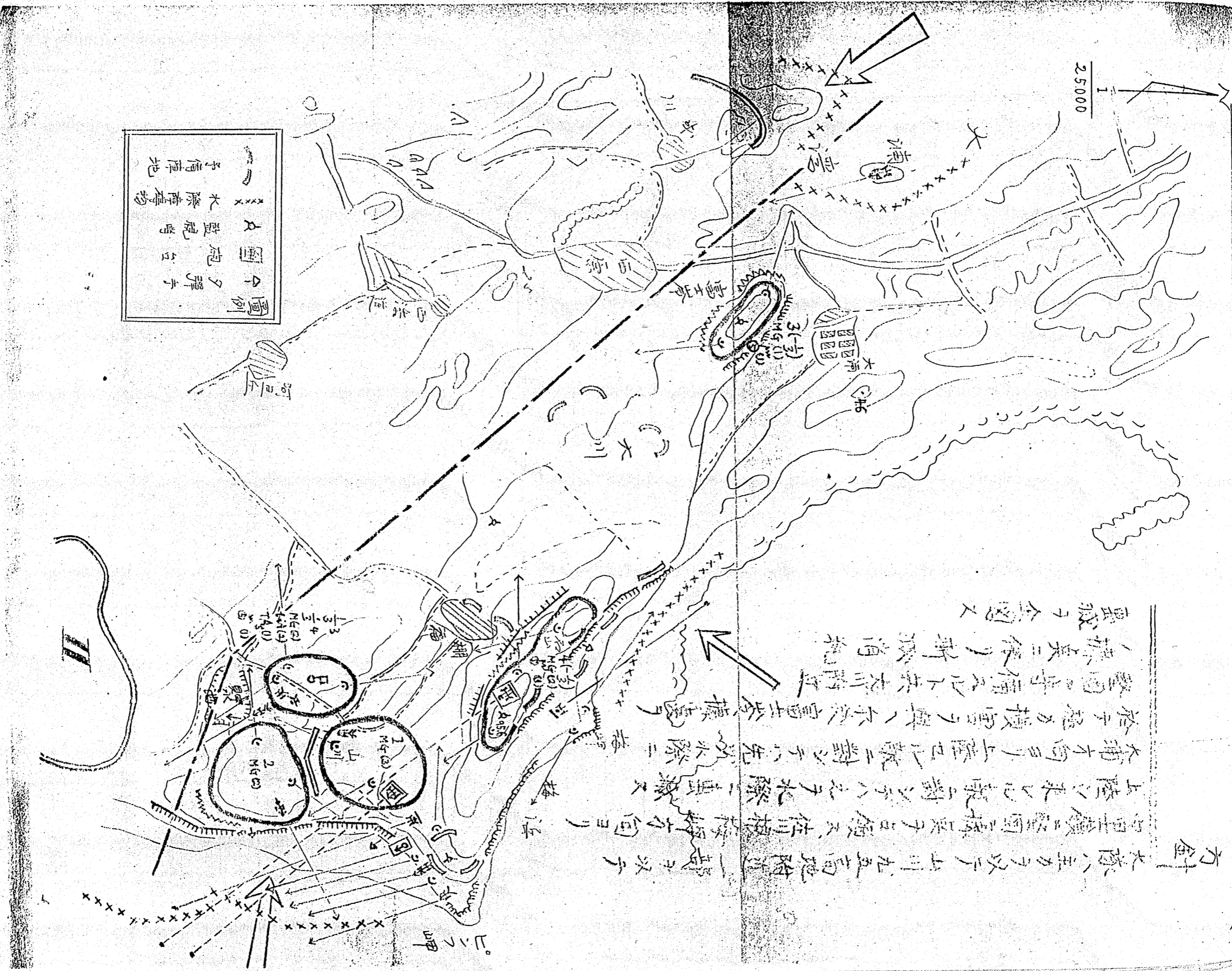
別紙

職員表(昭和三十五現在)第一大隊

大隊長 大村 山上誠之	
附 中尉 新田 裕	附 中尉 小黒 孝郎
附 少尉 山川 文康	附 少尉 中村 一十
附 少尉 草塚 忠志	附 少尉 菊本 正
附 少尉 伊藤 隆明	附 少尉 葉
第一中隊	第二中隊
附 少尉 後藤 一平	附 少尉 野村 武
附 少尉 小林 貞	附 少尉 小田 武
附 少尉 見士 塚田 武	附 中尉 瀧 瀨 宏之
附 少尉 外山 定明	附 少尉 前川 昇典
附 少尉 江崎 正昭	附 少尉 山岸 茂次
附 少尉 村井 進	附 少尉 岩瀬 實法
附 少尉 野澤 俊弘	附 少尉 木島 亮
附 少尉 村山 一男	附 少尉 坂井 茂敏
附 少尉 杉山 國夫	附 少尉 齊藤 潤治
附 少尉 渡邊 康邦	附 少尉 浪邊 康邦
第三中隊	第四中隊
附 少尉 長井 真山 齊	附 少尉 坂井 茂敏
附 少尉 杉山 國夫	附 少尉 齊藤 潤治
附 少尉 浪邊 康邦	附 少尉 浪邊 康邦
合計 三十名	



方針 大隊ハ主力ヲ以テ山ノ九五高地附近一帯ヲ以テ  
 守リタルニ因テ國境ニ於テ日領兵隊ハ極力前進セザルニ  
 上陸ノ未ルニ由リ敵軍對シテハ之ヲ水際ニ集メテ  
 捕テ向テ上陸已ル敵ニ對シテハ先決水際ニ集  
 於テ極力損害ヲ與ヘルニ當リ士氣奮勇ニ據ル  
 要地ニ守備セシムル兵隊附近  
 標兵三隊ヲ斬滅消絶  
 盡滅ヲ企圖ス



圖例  
 〇 彈子  
 □ 砲台  
 △ 監視哨  
 x x x 水際準備地  
 — 予備陣地

11